

# 山口大学医学部附属病院 緩和ケア研修会報告

山口大学医学部附属病院  
緩和ケアセンター事務局

平成 29 年 11 月 11 日（土）、12 日（日）に山口大学医学部附属病院主催緩和ケア研修会が ANA クラウンプラザホテル宇部で開催されました。「がん対策基本法」に基づく「がん対策推進基本計画」において、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについて基本的な知識を習得する」ことが目標と掲げられています。この目標達成のため、国が定めた「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づき、統一的なプログラムによる研修会を実施しています。

今回は、当院から 8 名、院外から 3 名のファシリテーターを迎え、当院及び近隣の病院をはじめ様々な診療科から、39 名の医師の参加がありました。

当院緩和ケアセンターの山縣裕史医師の開会挨拶に始まり、2 日間の研修では講義だけでなく、グループ演習、ロールプレイ演習も行われました。研修内容は、「緩和ケア概論」、「つらさの包括的評価と症状緩和」、「がん疼痛の評価と治療」、「呼吸困難」、「消化器症状」、「気持ちのつらさ・せん妄」についての講義、「疼痛事例検討」、「オピオイドを開始するとき」、「コミュニケーション」、「療養場所の選択及び地域連携・在宅緩和ケア」のグループ演習や、ロールプレイ演習を行いました。

講義、グループワーク、ロールプレイ、どの形式においても様々な意見や質問が活発に出され、参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができました。

参加者からは、「今まで緩和ケアにしっかりと関わったことがありませんでしたが、自分にも日頃の診療でできることなどが分かり、非常に勉強になった。この 2 日間で学んだことを診療に役立てたい。」「オピオイドの使用方法の確認や使い分け、患者のコミュニケーションを見直す機会になってよかったです。今後の臨床に役立てたいです。」「緩和ケアについて、医療的な側面と社会的な側面の両者からアプローチできたことが良かった。また、ロールプレイ等の参加型スタイルが印象に残った。」「ロールプレイを通して、他の先生方の考え方を学び、患者の視点に立って、どのように接するべきかについて考える貴重な機会となりました。」など多くの意見が寄せられ、有意義な研修会となりました。

## 《研修会風景》

開会挨拶



講義



ロールプレイ演習



グループワーク演習

